

ベストフイフティーン・  
新人賞ダブル受賞インタビュ  
マイケル・リーチ  
「東芝」レイブルパス

# RUGBY FOOTBALL



ジャパンラグビー  
トップリーグ  
2011-2012  
サントリーサンゴリアス  
4年ぶり2度目の  
リーグ制覇  
MVPは、ジョージ・スミス  
GEORGE SMITH

HSBCセブンズワールドシリーズ  
東京セブンズ2012開催  
世界の7人制スターが集結  
3月31日、4月1日は秩父宮ラグビー場へ



## 第43回 鹿児島ジュニアラグビーフットボールクラブ



部員数でも実力でも、鹿児島のミニラグビーをリードする鹿児島ジュニアラグビーフットボールクラブ。スタッフの熱い想いが、チームを引っばります。

文◎藤本幸俊

## 実力とともに、きめ細かな施策で部員数も増加

その前の週には九州の高校新人大会が開催され、東福岡をはじめとした強豪校がぞろい、有力大学チームのスカウトも多数訪れていたという、鹿児島県立北薩広域公園多目的グラウンドにやって来ました。この日は鹿児島県協会主催のミニラグビーの大会が開催されており、出場チームのひとつ、鹿児島ジュニアラグビーフットボールクラブ（以下、鹿児島ジュニア）取材するためです。

県の北西部の山あいにあるこの公園は広大で、グラウンドがある多目的広場もかなりの広さ。公園がある「さつま町」はラグビーが盛んなところということで、「どちらかというとラグビーでの使用が歓迎されるんです」（低学年担当ヘッドコーチ、岩重さん）

鹿児島ジュニアの高学年担当ヘッドコーチ、坂元さんに事前にきいていたところでは「鹿児島のローカルな大会ですから、のんびりやっていますよ」ということでしたが、行ってみるとそんなことはなく、3面のフィールドが用意されたグラウンドでは、とにかく試合を多くということなのでしょう、低学年から高学年まで隙間のないスケジュールで運営され、各チームの指導者やご父兄の声があちこちで響いていました。

さて、正式には「神園杯ミニラグビー大会」というこの大会で優勝したのが鹿児島ジュニアです。その始まりは社会人クラブチーム、甲南クラブを母体にして「甲南少年ラグビーフットボールクラブ」が設立された1996年。その後、鹿児島少年ラグビースクールと合併・統合して現在に至ります。

この日は大会のため、試合会場に赴きましたが、ふだんは鹿児島市の中心部から14キロほど南下した埋め立て地にある、石川島播磨重工業跡地グラウンド（鹿児島市七つ島）で

練習しています。また、中学生は残念ながら長崎の大会へ遠征で不在。ラグビーを始めたのは社会人になってから（甲南クラブ）で97年から現職という岩切総監督も同行されていたので、お目にかかれなかったのも残念です。

部員数は91名（小学生62名・中学生が29名）。監督・コーチは25名。鹿児島では部員数でも実力でも、リーダー的存在です。



低学年担当ヘッドコーチの岩重 貴さん



高学年担当ヘッドコーチの坂元 裕さん



低学年でこの身のこなし……！



こちらは6年生

### ここ数年で増えた部員数

実は人数に関しては、ここ数年で順調に伸びてきているそうです。

「もとい部員の弟妹がけっこう入ってきたり、またお母さん方の口コミも効いてますね」とコーチの岩重さん。また事務局の永井さんは「スタッフも多めにいますし、それぞれ職場なども異なるので、年度変わりのタイミングなどは特に、各方面に勧誘の声をかけていただいています」とも。

さらに県協会とのタイアップも成果を上げているようです。「鹿児島県協会も、ラグビー人口の底辺拡大ということから小学生・中学生の選手を増やそうと努力されています。そうしたバックアップ、あるいはうちのタイアップの企画なども結果につながっているのでは。たとえば、ラグビー未経験の親子に、いきなりラグビーを提案しても抵抗があるかもしれませんので、タグラグビーから入っていただくというのもひとつの入口かと思えます。鹿児島県タグラグビーフェスタは、タグの大会とミニの大会をいっしょにしたイベントで毎年行われています」（永井さん）

市の中心部には他スクールもあります。鹿児島市内とはいえ、中心部から少し離れたところを拠点としながらも部員数が増えるというのは、やはり指導者の方々が、これまで積み重ねてきた経験や実績というものが、周囲に伝わっているからなのでしょう。

### サッカーとソフトボールが盛ん

鹿児島ジュニアでは、指導方針のひとつとして「全てのプレーヤーのスキルアップとキャプテンシーを重視し、個人では



ナイスキック



少しでも前へ



ボールを味方に渡せるか？

なく、「チームとしての完成度」を高めていくことを掲げています。ひとつには、試合では全選手を出場させるようにしています。

「ミニラグビーでは、高学年は9人、中学年は7人ですから、比較的まわりやすい」と岩重さん。ただ5人制の低学年は、ちょっと大変で、全員を出そうとすると前後半で全員を入れ替えたり……。「試合では、萎縮してなにもできなくなってしまう子もいます。それではいけないので、とにかく『失敗してもいいんだよ』と指導しています」

高学年担当の坂元さんは、それでも「まず人数を確保しないと」といいます。「鹿児島はサッカーとソフトボールが盛んで、小学生のラグビー選手はどうしても少ない。学年で1チームがやっとだと、強くするという点では難しいところがありますから」

たしかに学年で2チーム編成ができれば、コーチングの幅が広がり、強化にもつながりやすくなります。いっそうの部員増に期待です。



1・2年生4人組みの女の子も試合に出場。「ラグビーで好きなところは、トライするところです」とキャプテンの青木実夢（みゆ）さん=左端



「礼」に始まり、「礼」に終わる（選手心得から）